

## 2019 孫基禎平和マラソン大会交流ツアー報告記

政府間レベルでは近年最悪と言われる日韓関係の中で実施された今年のツアー。一抹の不安を抱えながら始まった交流プログラムでしたが、終わってみれば例年以上の成果をあげ、どの参加者も温かい気持ちで帰国の途に就くことができました。



レース後の懇親会風景



大会前日の練習後、松坡ランニングクラブのメンバーと

ベルリンオリンピック(1936)マラソンで金メダルを獲得した孫基禎選手の功績を称えると同時に南北朝鮮の統一機運を高める目的で始まった(記念財団理事長談話)このマラソン大会に、私たちの「スポーツと平和を考えるユネスコクラブ」が参加するようになって今年で3年目。特に今回はツアーメンバー6名中4名が初回からの連続参加者であり、プログラムの内容や意義をよく理解していただいていたことが中味の濃い交流を実現できた一番の要因と思われま

す。大会主催者や現地で交流をさせていただいている関係の方々には今年もいつもと変わらぬおもてなしをいただきました。主催者は私たちの参加を歓迎してくださり、初回参加時から大会エントリー費用は免除されています。また、主催団体のひとつであるKSPPO(韓国スポーツ振興公団)理事長である趙在基氏のご厚意により、今回はその経営ホテルでの宿泊を特別価格で提供していただきました。

ここで3泊4日のツアーを振り返りその様子について報告させていただきます。

11月16日(土)

前夜それぞれでホテルにチェックインを済ませた参加者は、朝7時から地元の松坡区役所職員を中心メンバーとするランニングクラブの朝練習に参加。練習会場は1988年ソウルオリンピックが開催された広大なスポーツ公園です。練習最後には全員で韓国式エールをかけました。

その後はソウル駅近くにある孫基禎記念館へ移動し、彼の足跡をたどる学習の時間となりました。ここで毎年きめ細かなお世話をいただいている現地支援者の金宗洙さん(明治大学卒)と合流し、案内通訳をしていただきながら1年ぶりの再会を懐かしみました。

また、今回は新たな支援者として蔣 叡辰さんが韓国南部の蔚山(ウルサン)から駆けつけてくれました。蔣さんも明治大学出身で在学中は寺島ゼミに所属していたそうです。現在はフリーの通訳・翻訳家として活躍中です。



孫基禎記念館見学風景

11月17日(日)大会当日

午前6時50分にホテルロビーに全員集合。タクシーで会場のオリンピックスタジアムに向かいます。到着すると、会場は日本のマラソン大会と同じように多くのランナーの熱気で満ち溢れていました。開会式では前年同様、寺島団長が紹介されました。今年はさらに参加者全員(約1万名)に配布される大会プログラムに寺島団長が今年上梓した「評伝 孫基禎」が写真入りで掲載されたため、私たちが日本から参加していることは、より一層認知されたのではないかと感じました。レースはそれぞれが10kmとハーフマラソンに参加。ハーフのレース中には一時小雨も降りましたが、寒さは感じず快適なランニングができました。



懇親会で挨拶する松坡ランニングクラブ会長



レース後の記念撮影

レース後には地元ランニングクラブのメンバーと懇親昼食会です。実は今回の懇親会は、打合せ段階では実施がむずかしいと言われ泣く泣くプログラムから外していたのです。しかし、合同朝練習で実際に顔を合わせ言葉交わすうちに急きょ今年も一緒にやりましょうという事になり、本当に嬉しい予定変更となりました。しかも費用は全額招待していただくことに。懇親の時間はあっという間に過ぎ、翌年の再会を誓って散会となりました。

今年の交流懇親会には更に番外編が生まれました。朝練習時に意気投合して連絡先を交換したツアー参加のPさん(韓国人)と地元ランニングクラブのKさん。その縁で私たちの夕食に同席したKさんからカラオケスタジオへ誘われることになったのです。夕食後会場を移し、私たちの交流はランニングからカラオケへと続きました。

韓国のランナーにとっても、東京マラソンを始めとする日本のマラソン大会参加には関心が高いようです。そこで今後は、私たちが孫基禎平和マラソン大会へ継続参加すると同時に韓国から日本の大会に参加していただき、その時は私たちが彼らをもてなす側に回りたいものです。

11月18日(月)

ツアー最終日は、それぞれの予定に合わせて各自チェックアウトです。忙しい仕事をやり繰りして今年もご参加いただいた日本からのランナーの皆さま、本当にありがとうございました。また、現地できめ細かなご支援いただいた金宗洙さん、蔣叡辰さん、そして松坡区ランニングクラブの皆さまに心から感謝申し上げます、報告記を閉じたいと思います。

追記 昨年度のこの行事には、都ユ連から助成金が交付されました。改めて御礼申し上げます。

文責 小林均(事務局)



大会プログラムに掲載された出版紹介